

合同クラス・ガラス窓多し・天窓あり 音の反響に悩んでいた保育園が 吸音工事を実施するまで

志村先生のアドバイスを得て、今年保育室に吸音材を導入した保育園があります。工事を実施するまでの経緯を、園長先生に聞きました。

子どもの数が増えて 音問題が表面化

数年前に開設した私たちの園は、細長い園舎で、両サイドにガラス窓の多い構造です。開設後子どもの数が増えるにつれ、音が反響して声が聞こえづらくなり、聞こえないから声のボリュームが上がって、ますますうるさくなる悪循環に陥りました。特にうるさかったのは、約30名が一緒に過ごす幼児クラスの部屋。廊下やトイレを隔てた2歳児クラスまで、音が聞こえてくるという話もあったほどです。

子どもが集中できる ようになったのは…

保育者も疲労感を感じるようになり、志村洋子先生にご相談したところ、「試しに使ってみて」と、布でくるんだウレタン吸音材と吸音シートを貸し出されました。ウレタン吸音材を窓に立てかけ、吸音シートを壁に吊るして1週間経過し、その後撤去したら、保育者から、「子どもたちが話を聞けるようになった」と思っていたのに、マットがなくなったなら元に戻ってしまった気がする」という声が。

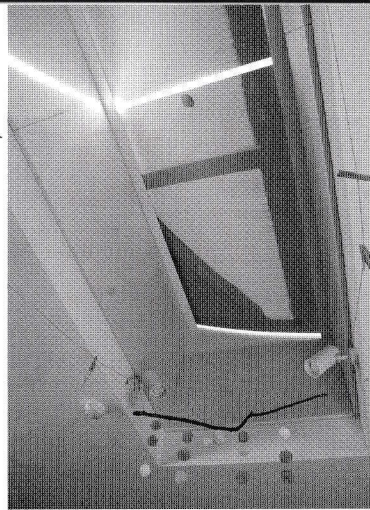
吸音材が音を吸収していた1週間、子どもは集中しやすかったんだね」と話題になりました。

**うるさを
数字にして共有**

音の影響の大きさを身をもって知ったことから、本格的な音対策に着手しました。

まず専門業者に依頼して、騒音レベルと残響の長さを10日間測定。また各クラスの職員にアンケートを実施し、「音が気になるか」「声が聞けることがあるか」などの質問に答えてもらいました。

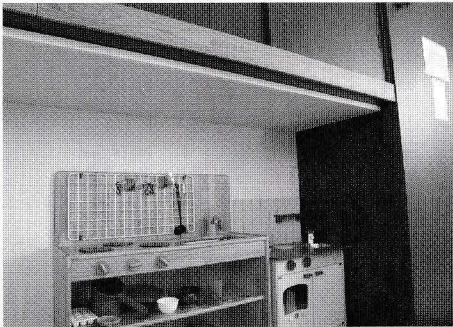
数字になった結果を見て、「やっぱり本当にうるさいだね」と、全員で問題を再確認。中でも騒音レベルが高かった幼児クラスの部屋に吸音材を貼ることを決定、他に修繕予定の箇所もありましたが、こちらの工事を優先して今年初めに実施しまし



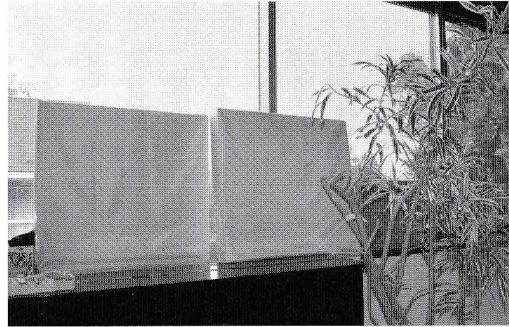
天窓のまわりの壁面に吸音材を貼り、音の反響を防止。



壁と絵の間に貼られているのが吸音材。本当は天井に貼るのが効果的だが、照明をつけ直さないと貼れないので断念した。



ごっこ遊びコーナーの壁面と、せり出した棚の下にも吸音材。ままごとの音が響きにくくなった。(写真は園提供)



お試して使って効果を実感したウレタン吸音材。現在は窓に立てかけてガラスの共鳴を抑えている。

た。

園の設計段階で 設置できるとよかった

毎日ここで過ごしていると慣れてしまうので、劇的な効果は実感しにくいのですが、久しぶりに園を訪れた人には、「吸音材を貼ったんですね。やはり違いますね」と言ってもらえます。

今回の改善を通して、環境設定や子どもとの関わり方など、保育の内容を見直すきっかけを得ることもできました。

ただ、吸音設備は最初からつけるほうが断然いい。今回のように後から追加すると、手間も費用もかかります。子どもにとって、保育室は毎日の生活の場。「保育室は音環境に配慮して設計する」ということが、もっと当たり前になっていかなければならないのではないかと感じています。